花乃井だより 学校通信

令和３年３月５日(金)
第　５３ 号
大阪市立花乃井中学校

近畿地方で“春一番”を観測!!

３月２日（火）に近畿地方で“春一番”が吹きました。関東地方ではすでに２月４日に吹いていた（過去最も早い記録）のですが、近畿では昨年と一昨年は吹かなかったので、観測は３年ぶりだそうです。

春にまつわるお話をひとつ。「春」は英語で「Spring」と言いますが、この言葉には「跳躍」という意味があります。「跳躍」と言えば「Jump」や「Hop」といった英語が浮かびますが、この「Hop」に「ｅ」をつけると「Hope（希望）」になります。つまり「春⇔跳躍⇔希望」とつながります。寒い冬から暖かい春への変化を表しているように思いませんか? 言葉遊びの辻褄合わせのように見えますが、もともと「Hope（希望）」は「Hop（跳躍）」につながっていると言ったのは心理学者のエリクソンでした。

希望とは、未来に対して「跳躍を促すような自由感」であると、彼は表現しました。そして、その土台となっているものは、不安に押しつぶされそうになった時などに、周囲の適切なサポートによって培われる「基本的信頼感」であると彼は指摘しています。つまり、何があっても支えてくれる人の存在が希望の未来へ跳躍する力をもたらすわけです。

皆さんにとって「何があっても支えてくれる人の存在」とは誰でしょうか？ まず一番身近には何といっても皆さんの保護者があがります。また、学校の教職員や友達なども挙げることができますが、これから先の長い人生にあって、ずっとそばにいて見守ってくれるとは限りません。ただ、接した時間がわずかしかなかったとしても、その後の苦境を乗り越える支えとなったという人との出会いは多々あります。例えば、明治維新の志士を数多く輩出した幕末の有名な松下村塾。後の英傑たちが、師と仰いだ吉田松陰に教えを受けた期間は概ね 1 年前後。中には 10 日ほどしかなかったという人もいるそうです。しかし、彼らはその師の教えを支えに苦難を乗り越えて大事業を成し遂げていくのです。人との“繋がり”や“出会い”がいかに大切かということになります。

私たちはまず「支えてくれる人」たちに感謝と報恩の念を忘れてはなりません。そして、今度は自分が「支えてくれる人」に成長していくことこそがその人たちへの最大の恩返しとなります。春は出会いと別れの季節ともいわれます。だからこそ、人との“繋がりを”大切にして、この季節を跳び越えていきたいと思います。

３年生 最後の朝の学年集会!!

今週月曜日は、公立高校特別選抜合格発表の日でした。午後からそれぞれの受験校へ確認に行きました。

また、水曜日の朝の学年集会は、３年生にとって中学校最後の学年集会になりました。この日は学年役員会のメンバーが前に出てそれぞれの想いを発表してくれました。これまで支えてくれた皆さんに対する感謝の弁が多く、さすがこの３年生集団を引っ張ってきただけあって、皆さんしっかりしているなと感心しました。

また、この日は公立高校一般選抜の出願日でもありました。この日、出願した人は、いよいよ第一志望の合格に向けて最後の受験となります。試験日は来週 10 日の水曜日。体調を万全にして臨んでください。

３年生のフロアに「この３年間を漢字一文字で表したら…」が掲示されました。国語の取組みだそうです。“夢”“謝”“笑”“絆”等々それぞれの想いが込められています。